

イマジユリ”imagerie”とは、イメージ図像を意味するフランス語です。

本展では、本や雑誌の挿絵、装幀、絵はがき、ポスター、広告、漫画など、大衆性の高い版画や印刷物の総称として、このことばを用いています。

技術革新を追い風に、出版文化が急速に発展した大正時代。イマジユリの世界も黄金期を迎えました。

当時、さまざまなイマジユリを舞台に活躍したのが藤島武二、橋口五葉、竹久夢二ら新しい表現方法を模索していた画家たちです。

彼らは同時代の美術界の動向と並走しながら、じつに多彩で魅力的な表現を生みだし、多くの人々の心をとらえました。こうした動きのなかで、やがて杉浦非水をはじめとするグラフィックデザイナーが誕生し、日本のモダンデザインに大きな影響を及ぼしました。

本展では、画家、版画家、挿絵画家、工芸家たちによる本の装幀、挿絵、デザイン画、広告、ポスター、絵はがき、版画を展示し、大正イマジユリの抒情性や、モダン感覚あふれる多彩なデザインやイラストレーションの数々をご覧ください。

当時の人々の高い美意識を感じるとともに、絵画作品とは異なり、大量生産され、人々の暮らしの身近にあった印刷物たちの小さいながらも美しく広がる豊かな世界をお楽しみください。



橋口五葉
夏目漱石著
『吾輩ハ猫デアル』下編(挿画)
1907(明治40)年[第3版]



水島爾保布
谷崎潤一郎著『人魚の嘆き・魔術師』(挿画)
1919(大正8)年[初版]



小村雪岱
三田村篤魚著
『大衆文藝評判記』(装幀)
1933(昭和8)年



杉浦非水
『三越』第22巻第5号
(表紙絵)
1932(昭和7)年



高島華宵
《願ひ》(華宵便箋表紙絵)
1925(大正14)年

T A I S H O I M A G E R I E



竹久夢二「唯我心悩ぞ知らぬ」
(セノオ楽譜27番)(表紙絵)
1924(大正13)年[第6版]



岡本帰一「ほたる」
(青い鳥楽譜78篇)(表紙絵)
1928(昭和3)年

本展 ならではの 関連イベントも!

会期中はレトロ&浪漫をキーワードにクイズイベントやワークショップなど、多彩なイベントが満開!

① 記念講演会

永山 多貴子氏(郡山市立美術館館長)が大正イマジユリの世界を分かりやすくお話しします。

日時	令和7(2025)年4月6日(日) 午後1時~2時30分まで
場所	高知県立文学館 1Fホール
定員	100名
参加	要当日観覧券
申込	電話または当館受付にて事前申し込み

③ 大正クイズ

展示を観ながら楽しくクイズを解きましょう。正解数に応じて、ステキなプレゼントがあります。

日時	令和7(2025)年 5月3日(土・祝)、5月4日(日・祝)、5月5日(月・祝)、 5月6日(火・休日)、6月7日(土)、6月8日(日) 各日とも①午前10時~12時 ②午後2時~4時まで
場所	高知県立文学館 2F 展示室前ロビー
参加	要当日観覧券
申込	事前申込不要 ※直接会場までお越しください

⑤ 展示解説

毎週土曜日に、展示会担当者による展示解説を行います。各回とも午後1時30分~(約20分)。要観覧券(直接会場にお越しください)。

花咲く モダンデザイン

~大正イマジユリの世界~

② 麗しの花 吊るしライト作り

花の形をしたぼんぼりにビーズを通して、吊るしライトを作ります。

日時	令和7(2025)年5月11日(日)、5月31日(土)、 6月1日(日) 各日とも午後2時~4時まで
場所	高知県立文学館 1Fホール
定員	各日50名
参加	当日観覧券と材料費500円が必要で
申込	電話または当館受付にて事前申し込み

④ 大正時代の音色 寅彦の蓄音機実演

大正時代に活躍した寺田寅彦の蓄音機を動かします。貴重な大正時代の音色を体感してみませんか?(機械や部品の不具合により、やむなく中止になる場合があります)

日時	令和7(2025)年6月15日(日) ①午前10時~11時 ②午後2時~3時
場所	高知県立文学館 1Fホール
定員	各回50名
参加	要当日観覧券
申込	電話または当館受付にて事前申し込み

学校等・団体での
グループ観覧も
大歓迎!(平日限定)

希望の観覧時間に応じて、展示会担当が独自の鑑賞プログラムをご用意します。詳細は気軽にお問い合わせください。(要予約)



小林かいち
《女の青春》
(絵はがき)
1925(大正14)~
1926(大正15)年